事業の概要

国道168ROUTE 小平尾バイパス

■ 国道168号は、和歌山県新宮市を起点とし、大阪府枚方市に至る延長約180kmの主要な南北の幹線道路です。
第二阪奈有料道路や西名阪自動車道などの東西の幹線道路と接続し、日常生活や産業活動を支えています。
■ 小平尾バイパスは、国道168号の生駒市小平尾町から生駒市小瀬町に至る約1.5kmの事業中の区間です。
（1工区（バイパス区間）：0.8km、2工区（現道拡幅区間）：0.7km）
■ 小平尾バイパスの整備により、壱分バイパスや上庄バイパスとともに、第二阪奈有料道路や国道25号へのアクセスが向上し、地域の交通環境の改善や生活利便性の向上が期待されます。

◆事業周辺の概要（拡大図）

◆事業の目的

■交通混雑の緩和
■交通安全性の向上
■地域の活性化
■救急救命活動の支援

◆計画諸元

事業区間	奈良県生駒市小平尾町～生駒市小瀬町
事業延長	1.5km
構造規格	第4種第1級
設計速度	60km/h
車線数	4車線
車線幅	3.25m
道路幅員	23.0m

◆標準断面図（計画）

【整備効果】交通混雑の緩和

国道168ROUTE 小平尾バイパス

■ 国道168号の事業中区間では、「小瀬町西交差点」と「小瀬町南交差点」が主要な渋滞箇所とされており、混雑度が1.0を超えて渋滞が発生しています。
■ 小平尾バイパスの整備により、4車線化されることで渋滞の緩和が図られ、交通の円滑化が期待されます。
※「小瀬町西交差点」では、右折レーンが設置され一部交通の円滑化が図られています。

◆小平尾バイパスの主要な渋滞箇所

◆国道168号の渋滞状況

写真① 小瀬町南交差点における渋滞状況
（令和6年12月13日）

◆整備後の渋滞状況の変化

※混雑度は令和3年度全国道路・街路交通情勢調査の値を使用

◆小瀬町西交差点の右折レーン設置

右折レーン設置前

写真② 小瀬町西交差点（右折レーン整備前）
（令和1年12月15日）

右折レーン設置後

写真③ 小瀬町西交差点（右折レーン整備後）
（令和6年11月8日）

【整備効果】交通安全性の向上

国道168 ROUTE 小平尾バイパス

- ■ 国道168号の事業中区間の死傷事故率は、整備済みの前後区間と比べて高いことに加え、歩道の幅員が狭い区間もあり、交通の安全性に課題があります。
- ■ 国道168号の渋滞を避ける車両が、近隣の通学路を抜け道として利用するため、通学児童の歩行環境も課題です。
- ■ 小平尾バイパスの整備により、国道168号の交通事故の危険性が低下するとともに、通学路への抜け道車両の流入が解消することで、交通の安全性向上が期待されます。

◆国道168号周辺の小中学校

◆国道168号の死傷事故率比較

出典：ITARDAデータ（R1～R4）

※死傷事故率とは・・・
交通事故の起こりやすさを表現した指標で、数値が高いほど交通事故の発生する危険性が高い区間であることを示します。

◆歩道の整備状況

写真①　歩道の整備状況（令和6年12月13日）

◆児童が通学している様子

写真②　通学する児童の様子（旧国道168号）（令和6年12月13日）

◆生駒南小学校からの声

当校の児童が登下校時に利用する通学路は、歩道もなく、国道168号渋滞を避けるための抜け道として利用するクルマが多いため、非常に危険です。

また、地域の方の協力で、国道168号横断時の安全を確保していますが、下校時・休日なども、児童の安全が心配です。

小平尾BPの整備によって、通学路の交通量が減少し、児童の安全性が高まることを期待しています。

【整備効果】地域の活性化

国道168ROUTE 小平尾バイパス

- ■ 生駒市都市計画マスタープランにおいて、小平尾バイパスの周辺地域は、南生駒駅を中心に日常生活や地域交流を支援する機能が集約された「生駒市南部エリアの地域拠点」として位置づけられています。
- ■ 小平尾バイパス周辺には、スーパーや飲食店などの商業施設や地域のコミュニティセンターが立地しています。
- ■ 小平尾バイパスの整備により、地域拠点へのアクセス性の強化および地域の目指すまちづくりを支援します。

◆生駒市の将来都市構造図

出典：生駒市都市計画マスタープラン（令和3年6月）

◆小平尾バイパス周辺の商業施設

◆地域拠点へのアクセス性の強化

※走行速度は令和3年度全国道路・街路交通情勢調査より算出

◆地域の文化施設

写真　生駒市立 南コミュニティセンターせせらぎ（令和6年12月13日）

【整備効果】救急救命活動の支援

国道168ROUTE 小平尾バイパス

■ 小平尾バイパスの現道は、1日当たり約2.1人の救急搬送に利用されていますが、渋滞により救急救命活動に支障をきたしている状況です。
■ 小平尾バイパスの整備により、救急搬送の時間が短縮され、地域の救急救命活動に貢献することが期待されます。

◆主要な救急搬送先の病院

◆整備後の搬送時間の変化（生駒市消防署～近畿大学奈良病院）

※整備前は令和3年度全国道路・街路交通情勢調査の混雑時所要時間
※整備後は小平尾バイパスの設計速度から算出した所要時間

▲ カーラー曲線
心臓停止・呼吸停止・多量出血が起こった場合の時間経過と死亡率を表した曲線です。

◆渋滞時の救急搬送の影響

写真　渋滞により救急搬送に支障をきたす（整備前）
（令和6年12月13日）

◆生駒市消防署からの声

生駒市から近大奈良病院や西和医療センターに向かう場合は殆ど国道168号を利用しています。
しかし、国道168号は渋滞が多く発生しており、渋滞により遅れ時間が発生する場合があります。
また、現在の国道168号の道路状況では、狭い幅員区間において、電柱やガードレール等に接触する危険を感じる箇所もあります。
しかし周辺道路の壱分バイパスや上庄バイパスの供用により、国道168号は交通量が緩和したため、渋滞の緩和や搬送ルートの選択肢の幅が広がっています。同様に、小平尾バイパスの整備による救急搬送の円滑化の向上に期待します。

【整備効果】防災機能の強化

国道 168 ROUTE 小平尾バイパス

- 小平尾バイパス（2工区）は、第一次緊急輸送道路および避難路に指定されており、災害時に円滑な人流・物流の確保を図るため無電柱化が計画されています。（延長　0.7km×2＝1.4km　2工区（現道拡幅）両側）
- 小平尾バイパスの現道では道路沿いに電柱が立ち並び、災害時には倒壊した電柱が通行を妨げる恐れがあります。また、歩行者や車いすの通行に支障をきたし、まちの景観を損ねる原因にもなっています。
- 小平尾バイパスの整備に併せて無電柱化することで、「防災機能の強化」・「安全で快適な通行空間の確保」・「まちの景観の向上」を図ります。

◆無電中化のイメージ図

無電柱化とは･･･道路の地下空間を利用し、電線類を地中化したり、表通りから見えないよう、道路から電柱を無くすことを言います。

出典：国土交通省 近畿地方整備局 無電柱化の進め方

◆小平尾バイパスの電柱設置状況

◆防災機能の強化

電柱の倒壊により道路が遮断されるのを防ぎ、電気や電話などのライフラインの安定供給を確保します。

◆安全で快適な歩行空間の確保

歩道内の電柱をなくし、歩行者やベビーカー・車いすも移動しやすい歩行空間を確保します。

◆まちの景観の向上

まちの景観の阻害要因となる電柱・電線をなくし、良好なまちの景観の向上を図ります。

出典：国土交通省無電柱化の目的